

# ロシアによるウクライナ侵略の状況

(2023年11月15日時点)

➤ **ウクライナ軍**は、東部(ドネツク州)及び南部(ザポリヅジャ州)での攻勢が停滞する中、ヘルソン正面やクリミア半島方面への攻撃を継続する一方、**露軍**は、東部で攻勢を強めるとともに、各地への攻撃を継続している模様

戦闘による人的被害・物的損耗の状況

露軍: 死者約12万人、負傷者約18万人 (NYT8月18日)

: 死者約15万人 (「ウ」軍総司令官11月1日)

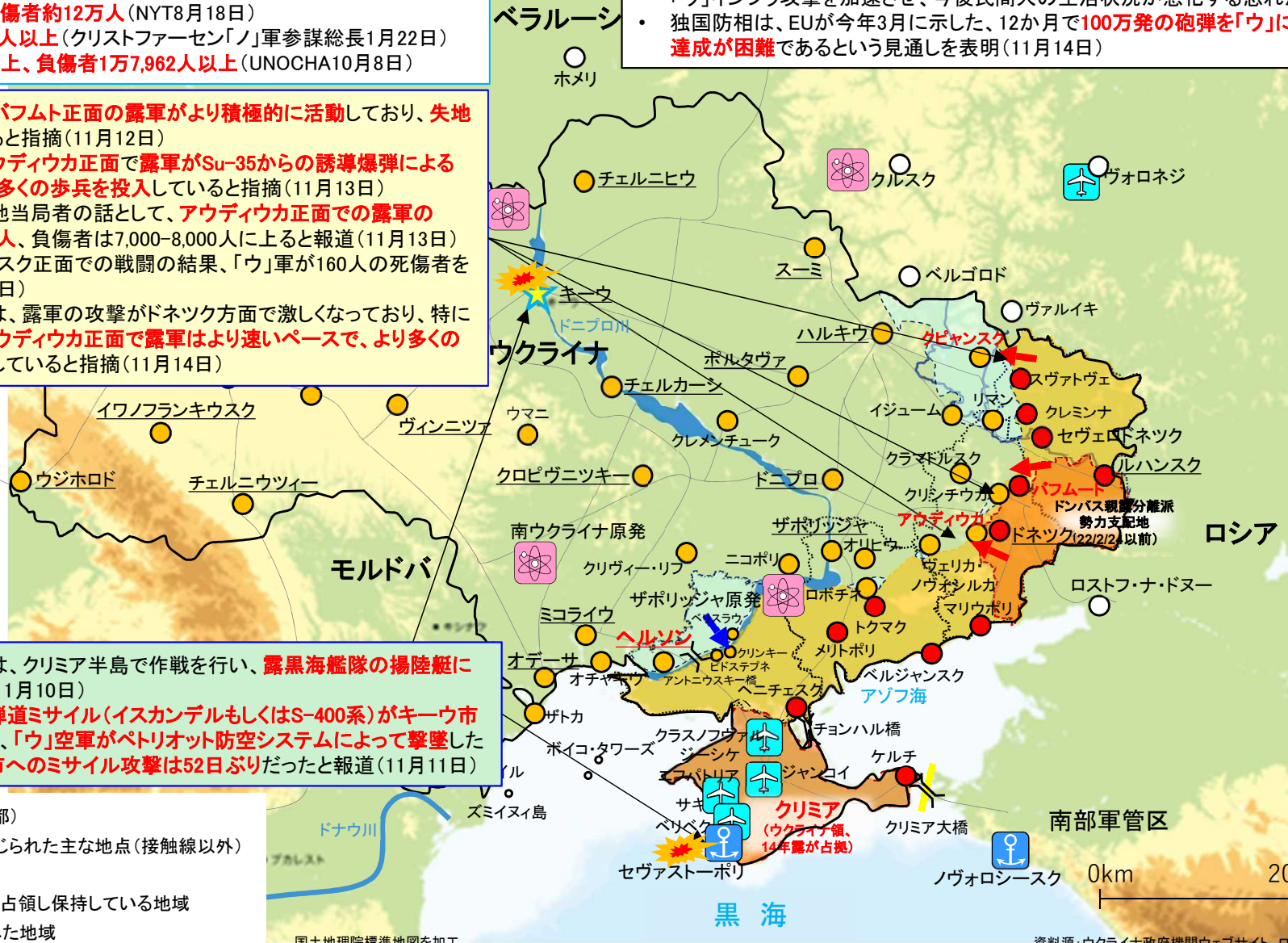
「ウ」軍: 死者約7万人、負傷者約12万人 (NYT8月18日)

: 死傷者推定10万人以上 (クリストファーセン「ノ」軍参謀総長1月22日)

「ウ」市民: 死者9,806人以上、負傷者1万7,962人以上 (UNOCHA10月8日)

- 「ウ」陸軍司令官は、バフムト正面の露軍がより積極的に活動しており、失地の回復を企図していると指摘(11月12日)
- 「ウ」軍報道官は、アウディウカ正面で露軍がSu-35からの誘導爆弾による空爆を増大させ、より多くの歩兵を投入していると指摘(11月13日)
- 「ウ」国営通信は、現地当局者の話として、アウディウカ正面での露軍の死者数は3,000-4,000人、負傷者は7,000-8,000人に上ると報道(11月13日)
- 露国防省は、クピャンスク正面での戦闘の結果、「ウ」軍が160人の死傷者を出したと指摘(11月13日)
- ゼレンスキー大統領は、露軍の攻撃がドネツク方面で激しくなっており、特にバフムト正面よりもアウディウカ正面で露軍はより速いペースで、より多くの装備品と人員を損失していると指摘(11月14日)

- 米ISISは、露国内でイラン設計の無人機「シャヘド136」を量産する工場の建設が進捗していることが衛星画像で判明した旨報告書で指摘。また、同報告書では、露軍が冬季に同無人機による「ウ」インフラ攻撃を加速させ、今後民間人の生活状況が悪化する恐れがある旨指摘(11月13日)
- 独国防相は、EUが今年3月に示した、12か月で100万発の砲弾を「ウ」に供与するという目標の達成が困難であるという見通しを表明(11月14日)



- 「ウ」国防省情報総局は、クリミア半島で作戦を行い、露黒海艦隊の揚陸艇に損傷を与えた旨発表(11月10日)
- 「ウ」メディアは、露軍弾道ミサイル(イスカンデルもしくはS-400系)がキーウ市に向けて発射されたが、「ウ」空軍がペトリオット防空システムによって撃墜したと報道。また、キーウ市へのミサイル攻撃は52日ぶりだったと報道(11月11日)

- 主要都市(下線は州都)
- ☀ 露軍による攻撃が報じられた主な地点(接触線以外)
- 露軍が占領した地点
- ☀ 侵略開始後に露軍が占領し保持している地域
- ☀ ウクライナ軍が奪還した地域

国土院地理院標準地図を加工

資料源: ウクライナ政府機関ウェブサイト、ロシア大統領府ウェブサイト、ISW等